

★漢方談義★

東洋医学の蔵府について

太田 順康

西洋医学で云う「肝臓」と東洋医学で云う「肝」とは同じようであり違っていることも多くあります。

鍼の先生に「肝」が弱っている云われても、「肝臓」が悪いわけではありません。

東洋医学では、いわゆる内臓を五臓六腑としています。臓は「肝、心、脾、肺、腎」の実質臓器（中が詰まっている）で、腑は「胆、小腸、胃、大腸、膀胱、三焦」の中空臓器です。臓が五なのは、臓が陰の性質を持つので、陽の数（奇数）であり、腑は陽の性質を持つので陰の数（偶数）になっています。

臓も腑も倉庫の意味ですが、蔵の方はしまい込む場所、府は一時的に入れておく所です、入って来たものを形を変えて次の府に送り出すところです。

水穀（食物）が胃に入ると胃は水穀から精気（エネルギー）を取り出し脾に渡し、滓を小腸に渡し小腸は滓を固形物と水とに分別して、固形物を大腸に、水分を膀胱に渡します。大腸は固形物を大便として排出し、膀胱は水分を小便として排出します。これが東洋医学で考える食物の流れです。西洋医学の考え方と随分ちがいます。

また「臓」の働きには、喜怒哀楽や、精神作用も含まれています。「肝」は怒を司ります。「肝」が昂ると怒りやすくなり、怒が過ぎると「肝」が弱ります。

また「肝」は思慮、謀慮を行います。

他の臓では、「心」＝喜び、笑、精神作用。

「肺」＝憂、悲、感情、礼節を調える。

「脾」＝思、意思、運化（消化吸收）を司り、血を統べ、血を生ずる働き。

「腎」＝驚、恐、技巧をこらす、志（こころざし）の働き、生殖、排泄の働き。

また古い医書の素問には臓腑を宮廷の組織になぞらえてその働きを説明しています。

心は君主の官、神明これより出ず。

肺は相傳の官、治節これより出ず。

肝は將軍の官、謀慮これより出ず。

胆は中正の官、決断これより出ず。

壇中は臣使の官、喜樂これより出ず。

脾胃は倉廩の官、五味これより出ず。

大腸は伝道の官、變化これより出ず。

小腸は受盛の官、化物これより出ず。↗



ザクロの花 「漢方研究」より



すこやか教室 山歩き

曜日と時間： 毎週金曜日 10:30～

☆雨のときは、中止します。

☆お茶など飲み物を持参

＜8月の予定＞

4日（金） 18日（金） 25日（金）

7月はずっと高い湿度と暑さの毎日でした。やっとセミたちが賑やかに鳴いています。記録にない！ような豪雨に見舞われた地域はいまも大変な毎日だろうと、ここ百々ヶ峰の山道を歩きながら思います。昔と違って、山は荒れてきています。日本は山の国。国の施策として林業に力を入れ、この美しい自然を守るのに税金を使ってほしいと思います。

8月、暑さに負けないで元気に歩きましょう。萩の滝から昇るひんやりとした風と岩壁を絶えることなく落ちる雫が疲れを癒してくれます。



§ 漢方相談日

（担当 太田順康：日本漢方交流会認定漢方終身師範。岐阜県漢方研究会会長。岐阜薬科大学「漢方学」講師）
今月の漢方相談日は、下記のようにです。

7日（月） 21日（月） 28日（月）

§ 8月の休診日

11日（金・祭日） 14日（月・お盆）

§ 甲状腺エコー検査を始めました。

ご希望の方は、受付までお申し出ください。



腎は作強の官、技巧これより出ず。

三焦は決瀉の官、水道これより出ず。

膀胱は州都の官、津液はここに蔵し、気化する時は則ち能く出ず。

と云っています。

※壇中＝心む→心を包む膜。心の代行をする。
次回からそれぞれの臓腑の働きを説明します。

（つづく）